

まつ毛エクステンション施術（以下、施術）は、敏感かつ繊細な目元に対して行う美容行為です。眼疾患の発症を事前に防ぐことは、施術者の義務と言えます。本資料は、施術によって生じた障害を 3 例記載しています。また、眼瞼を清潔に保たなかったことで寄生し増殖するニキビダニに関する情報も記載しています。誰にとってもわかりやすいように、実際の症例写真を用いています。

マイボーム腺炎等 - エクステ障害 3 例

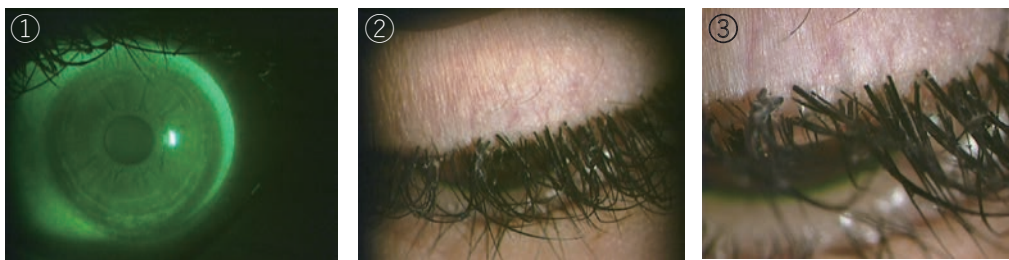
エクステ障害 1 例目

上眼瞼縁がエクステ根元部分の接触で炎症腫脹、また方向が間違っものが結膜（白目）に当たって結膜びらん（黄色く染まっている）を発症して充血と疼痛で眼科受診した。



エクステ障害 2 例目

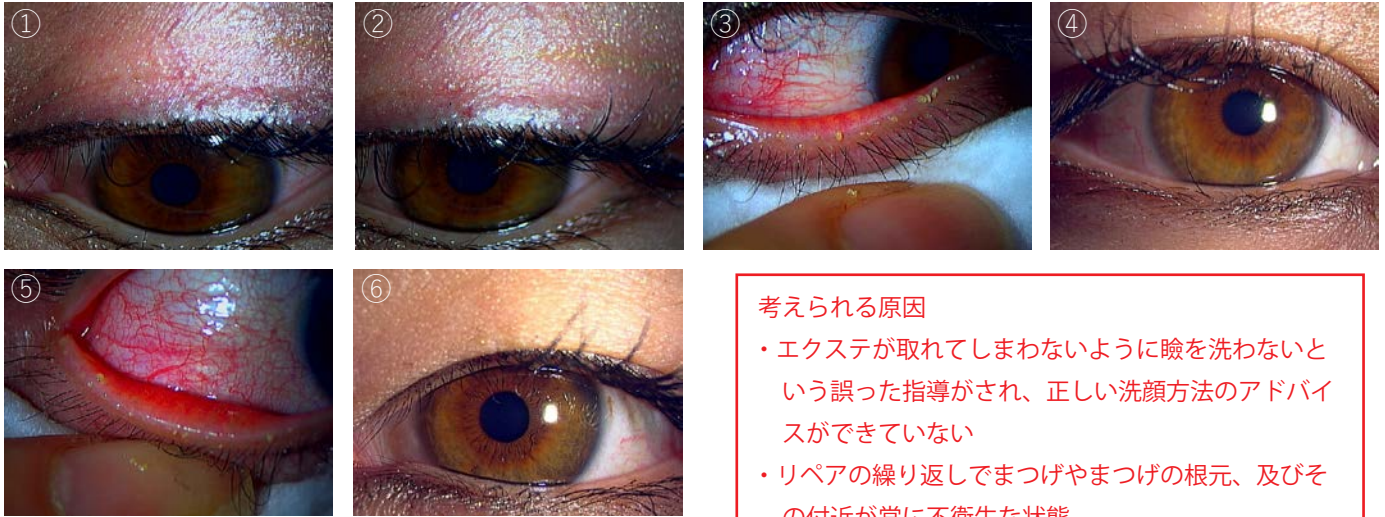
エクステが皮膚に当たって腫脹し、表層性びまん性角膜びらん（黄色く転々と染まっているところ）がある。エクステに綿のような繊維が付着していた。



考えられる原因

- ・接着位置が近すぎる（皮膚に接着）
- ・知識の浅い技術者による施術
- ・タオルやコットン等の繊維が絡まっている
- 施術時にコットンや不織布テープ等の繊維が付着した
- 毛羽立ちやすいタオルやコットンを目元に使用しないようにというアフターケアアドバイスが不足していた

エクステ障害 1,2 例目：写真提供、さくら眼科 松久充子先生
<http://www.sakura-shizuoka.jp/>



考えられる原因

- ・エクステが取れてしまわないように瞼を洗わないという誤った指導がされ、正しい洗顔方法のアドバイスができていない
- ・リペアの繰り返しでまつげやまつげの根元、及びその付近が常に不衛生な状態

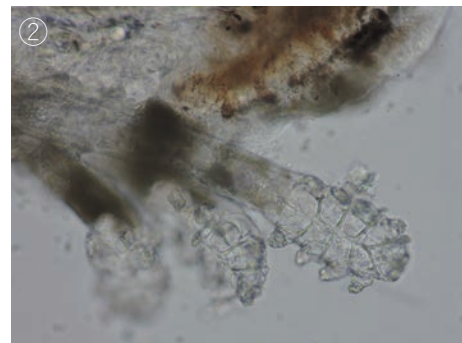
エクステ障害 3 例目：写真提供、高良眼科 高良由紀子先生

ダニパワー

引用：筑波大学 異学医療系眼科准教授 加治優一先生ご提供スライド

ニキビダニの大量寄生→眼瞼炎？

ヒトの皮膚にはニキビダニが生息し、まつげ根部に入り込んで増殖する。
ニキビダニは皮脂を好むため、不衛生な目元のまつげ根部に生着してしまう。



ニキビダニ：写真提供、筑波大学 医学医療系眼科准教授 加治優一先生

<https://kajiyuichi.jimdo.com/>



まつげを抜いてみると

眼瞼炎を発症すると大量のニキビダニが毛根部分に生息し、炎症がなかなか治らなくなる。完全に退治は不可能、対策は清潔、増やさないこと。

- ・顧客のまつげに合わせて無理のないカールを選択する
- ・方向が変わりかけのエクステはリペアの際に必ず取り外す
- ・人工毛の装着はまつげの根元に近すぎないよう、及び皮膚に接着しないよう、施術者に周知徹底を必須とする。
- ・顧客が体調不良の際は鋭敏に気づき、免疫力が落ちている際には無理に施術を行わない。
- ・ホームケアでは正しい洗顔方法を伝え、目元は常に清潔に保っていただくことを第一優先とする。
- ・ホームケアではタオルや枕やスキンケア時のコットン等の繊維が人工毛と絡まないよう注意を払っていただく。
絡まってしまった場合は放置しないよう顧客に伝える。
- ・施術時にコットンやテープの繊維をエクステに付着させない。
- ・アイシャンプー等のメニューを導入し施術前にまつげに付着した汚れ・皮脂を入念に取り除く（特にリペア時は重要）

エクステをした当日の夜から結膜炎になった患者さんの診察をされた眼科専門医からまつげエクステ施術者への注意喚起です。

「医師をはじめとした医療従事者は、どんな方でも相手に触ったら、必ず逆性石鹸などで洗浄し手指用擦りこみ式アルコール消毒を行います。一番大切なことは手洗いです。また、眼感染症を起こすウイルスには消毒用エタノールしか有効ではありません。一方、消毒用アルコールが目に入ると眼障害を引き起こしますので、アルコール成分がしっかり乾いてから目に触るよう注意が必要です。」

結膜炎の原因は、ウイルスもしくは細菌の接触感染とのこと。

「患者さんがサロンに訪れた際、施術担当者がその患者さんの前に施術した方が感染症だったことに気が付かず、消毒不十分な状態で施術したと思われます。」

先生はまつげエクステ施術者にこう問いかけます。

「施術器具は毎回消毒しているでしょうか？」

「施術者の手は毎回消毒しているでしょうか？」

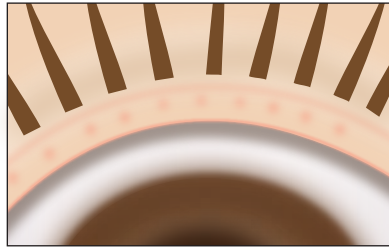
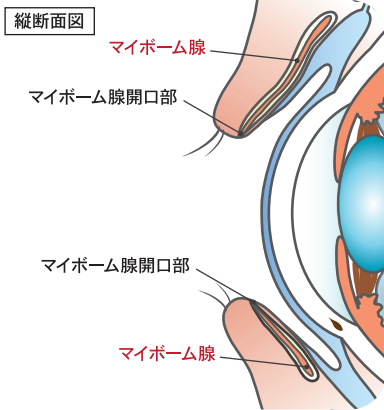
まとめ

”充血、眼脂が多い方、瞼が腫れている方は、施術日を変更しましょう。” 施術者として学ぶことは目元を美しく仕上げることだけではありません。まつげエクステを長く楽しんでいただくには、正しい施術と正しいホームケアが欠かせないということがよく分かっていただけたと思います。まつげが清潔でないと眼疾患やまつげの脱毛につながります。まつげエクステ施術者として最も重要なことは、施術をしたことが原因で障害が起こらないように正確な情報から適切に学ぶことです。正しい施術方法を学び、サロン内の施術者全員に徹底すること、正しいホームケアアドバイスを顧客へお伝えすること、サロン内は衛生管理を徹底し常に清潔を保つことが必須です。これにより、将来の顧客に対して安心・安全な施術を提供することが可能となるのです。また、顧客が目元に異常を感じたら、すぐに眼科を受診していただく事も忘れてはいけません。顧客に末永くサロンに通っていただくためには、まつげや目元を衛生的に保っていただき、顧客自身に健康でいていただくことが第一優先なのです。

本資料の作成にあたり、写真の提供・校正に御協力くださいました、さくら眼科の松久充子先生、高良眼科の高良由紀子先生、筑波大学医学医療系眼科准教授の加治優一先生に心より感謝申し上げます。本資料がまつげエクステ施術に携わる多くの方に読まれ、安心・安全な施術への理解がより深まることを願っております。

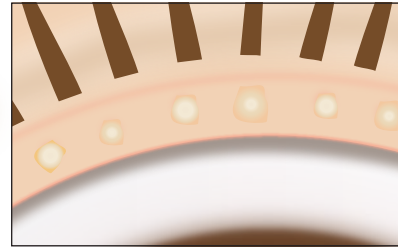
マイボーム腺の構造

マイボーム腺とはまぶたの裏（まつげの生え際）にそって上下約 70～80 個程度ある皮脂腺の事です。マイボーム腺から分泌される油は「涙」の表面に油膜をつくり、蒸発を防ぐ役割をしています。このマイボーム腺の機能が、なんらかの原因で低下してしまう状態をマイボーム腺機能不全(以下、MGD)と呼称します。MGD の症状は目の不快感、ドライアイ、ゴロゴロ、ものもらい、結膜炎、眼瞼炎（瞼の炎症）、マイボーム腺炎などさまざまな眼病の原因になります。中でも、マイボーム腺から出る油が減ると涙が蒸発しやすくなり、「ドライアイ」になります。また、マイボーム腺の油分が詰まった状態を「マイボーム腺梗塞」と呼びます。これらを防ぐには、日ごろからまぶたのふちを清潔に保つ必要があります。MGD は慢性的なもののため、マイボーム腺のケアは根気よく続ける必要があります。



【正常な状態のマイボーム腺】

正常な状態のマイボーム腺は肉眼でははっきりと見えません。上瞼と下瞼の粘膜部分に存在しています。



【マイボーム腺梗塞】

マイボーム腺の機能が落ちると、油が分泌管に溜り、白色の固まりを作ってしまう。加齢によるマイボーム腺の萎縮、まぶたの汚れや脂質の多い食事、アイメイクがしっかり落とせていないといったことも、マイボーム腺梗塞の原因になりえます。



まつげの付け根部分に落としきれ
ていないメイクが残っている



マイボーム腺の日常のケア

POINT：清潔に保つことと、温めること。

CLEAN



●目の際のアイメイクまで確実に落としきる

メイクの落とし残しによりマイボーム腺のバランスが乱れます。まつげエクステが付いている状態であってもまつげの付け根のところまで確実に洗顔し汚れを落としきります。まつげの付け根をマッサージするつもりでまつげ根部までやさしく丁寧に洗うことを心がけましょう。

※日ごろからマイボーム腺が存在する目の粘膜部分へのアイメイクは避けましょう。
→アイラインはまつげの外側に引く、マスカラは根元を避けてぬる、等

※目を強く閉じて洗顔をすると、まつげの付け根（まぶたのふち）付近が綺麗になっていないことがあるため注意が必要です。

HOT



●お風呂や洗顔のあとにタオル等をまぶたの上からあててよく温める

蒸しタオルは電子レンジ等で作れます。5～10分程度、毎日継続して温めましょう。蒸しタオルの適温は触った時に心地いいと感じる約 40 度で、やけどをしないよう注意してください。

また、市販のホットアイマスク等は常時気軽に取り入れられるため有効です。

眼科領域監修:さくら眼科 松久充子先生